

第95回 高倉山から金剛山

小川秀一

三共商事株式会社(第4支部)

2019年12月22日 曇り

師走の21日土曜日の昼下がり、年末の買い物客にインバウンドの外国人が加わり、銀座はごった返していた。今日は仕事を離れ少し開放感のある銀座でゆったりと散歩である。

歩行者天国の外堀通りから交詢社通りを抜け、中央通りに来た。

「そろそろ時間だ」。国籍不明の大勢の旅行者に解放されたこの通りには高級ブランドの店が立ち並ぶ。大きなガラスのショーウィンドーは店を一層高級に見せている。ガラスは文明の象徴だと何かの本に書いてあったっけ。煌びやかな銀座を散歩していると豊かな気持ちになってくる。ここでは別行動をとって自由な時間を楽しんでいたが、うちの嫁さんと落ち合う時間になった。確認の電話を入れなければ。今日は孫のクリスマスのおもちゃとハイキング同好会のお酒を買いに来たのだ。

全部がガラスで出来上がっているような銀座シックスの前を歩いていると行き交う人は更に多くなり、世界の人種が全て集まったように喧噪な街である。携帯を取り出し、掛けようと画面に目を遣ったその時、その方向から女の人の早口な声がした。「ラジオ局のものですが、街頭インタビューいいですか?」、しまった! 引っかかってしまった。不意を突かれ「ハッ、はい」と言ってしまった。質問が飛んできた「この一年、印象的なことは何ですか?」、もしかしてテレビカメラが……。あわてて回りを見た。「テレビカメラもあるんですか?」、動揺して間の抜けた質問をしてしまった。「ラジオなんで!」、質問は何だったっけ? そーだ、今年の影響だ! 「そうですネー、災害が……」。回答には充分注意しなければならない。スタジオにコメンテーターが何人かいて、「この人は何を考えているんでしょうネ!」などと笑いものにされ、公共の電波に乗ってしまったのは最悪だ……。

毎年この時期になると日本列島は極寒の大陸性高気圧にすっぽり包まれ、西高東低の冬型気圧配置の寒い朝を迎えるのだが、今年は暖冬である。2、3日前から天気予報の雨印が気になっていたが、取り敢えずは曇りの比較的暖かい朝になった。高尾駅で9時24分当駅始発の甲府行きに乗り換え、バトミントンの練習とここの所山歩きが続き、鍛え上げている嫁さんと藤野駅に向かう。磯部さんからは麓までタクシーを使った宴会中心の楽なコースですとは言われているが、久し振りなのでついていけるのか心配だ。

関東平野は太古の昔に利根川、荒川、多摩川、相模川の流れて形成されたが、今日はこの中の一番西の相模川の上流を相模ダムで堰き止めた相模湖の南側の山を2つ登ることになる。

藤野駅に着いた。この山間の駅も自動改札機が4台も設置されている。朝晩には通勤ラッシュがあるのかも知れない。同じ列車で到着した若林さん、乾さん、山本さん、高橋さんとここで合流。ここから登山口まで6、7kmはある。登山口まで歩けば良いと思うのだが、今日は

宴会中心である。宴会会場に遅れるわけには行かないのだ。自動改札の台数と矛盾するが過疎なのか日曜日はバスが運休、町に3台しかないタクシーがフル稼働で出発点の葛原(とずらはら)バス停まで運んでくれる。一台に4人しか乗れないので、乾さんと若林さんが次のタクシーにまわってくれた。まだ藤野駅に到着していない石井さんグループと3番目のタクシーとなる。我々は15分ほどで出発点の葛原バス停に着いた。一台前に乗った磯部さんとこのバス停で合流。

しばらくして乾さんたちもタクシーで到着。どうやら2名遅刻者が出たようだ。ハイキング同好会には幾多の悲劇を生んでいる‘鉄の掟(おきて)’がある。遅刻した者には重い罰金が科せられるのです。乾さんは「今日の宴会は豪華版になりますね。う〜ん、会費は徴収しなくてもいいかも知れませんネ」と上機嫌だ。

9時52分、めいめい準備運動をして、いざ出発である。以前から足の不調を訴えておられた磯部さんも今年初めに整形外科で名高い“ヨシワラ病院”で膝の‘前十字靭帯再建手術’という難しい手術を受け、今は快調らしい。ハイキング同好会の行くべき道を不屈の精神で指し示すように先頭を歩く。

歩き始めてすぐ登山口に到着した。登山口とは言っても‘けもの道’のような登山道である。しばらくは本当の登山道なのか疑いながら歩く、何やらイノシシの蹄で掘り返した痕のような穴のあいた荒れた道を進む。熊やイノシシに注意の看板がある。足元は枯れ葉がぶ厚く積もり、注意して歩かないと枯葉ごと滑って転びそうだ。

15分ぐらいで高倉山と金剛山との分岐点に到着した。心配していたが今日は楽だ！ここで重い荷物を置いて高倉山に登る。置いたリュックの中の昼飯の匂いを嗅ぎつけ、熊が寄ってこないか心配だ。暖冬で熊も冬眠しないのではないか。腹を空かしているかもしれない。このあいだ行きつけの床屋の親父さんの話では、散歩させている飼い主が言うことを聞かない愛犬を叱りつけ、その鼻面を殴ってしまったら、店の前で犬がショックで気絶してしまった話をしていた。犬は神経の集まった鼻が急所らしい。犬も熊も急所は一緒だろう！熊が襲ってくる。鼻に一撃を食らわせる。熊は倒れる。ショックで痙攣している姿を思い浮かべた。そっと棒状の枝を拾う。読者の皆さん、ご注意申し上げますが、これは単なる根拠のない仮説ですので、本気で信じないでください。責任は負いかねます。

10時14分、高倉山の山頂に到着。分厚く降り積もった枯葉の間に硬い岩が露出している急な山道を5分で登ってきたが、なんてことはない山頂である。すぐに、リュックを置いた分岐点まで引き返し、天神峠に向かう。「早いですネ、半分です」今回は宴会重視の登山である。ここまでは標準登攀時間の半分で来ているようだ。磯部さんの頭のスケジューラーが動き出し、予定の2時間前に宴会場に到着してしまうと、はじき出したようだ。

10時31分、天神峠に到着。ここでアスファルトの道路と山道とが100mほど重なるが、そこを過ぎると尾根伝いの上り坂になる。なぜか見晴台近くまで玄武岩で階段が作られた立派な山道になった。もしかして金剛山は信仰を集めていて、その参道なのかも知れない。

11時5分、金剛山到着である。山頂には小さなお社がある。小峯神社が祀られているのだ。山頂への途中の見晴台で、藤野駅を遅れてきたお2人は反対側から山を登ってきて、こ

こで合流。お2人は罰金の話ではやし立てられ、しょげ返っていた。金剛山の山頂からは一気に昼食の葛原神社へ向かう。

11時38分、葛原神社に到着した。2時間かからずに2つの山を登り切ったのだ。今回は当初の心配をよそに楽勝であった。

葛原神社横の昼食場は原っぱのような畑の一面に建てられている。遠足にきた四、五十人の小学生がきちんとお弁当が食べられるようなちゃんと木製の4人ずつ向き合って座れる8人掛けの大きなテーブルとベンチが合計8つ設置されている。脇は原っぱのような畑だが、その向こうには鉄筋コンクリートのトイレも用意されている。

到着し、礒部さんは早速リュックに入っていたバーナーなどの道具を取り出し、湯を沸かし始めた。恒例の紅茶の支度である。石井さんが参加人数分のビール缶をリュックから取り出した。気落ちした心には、さぞ重かったのではないだろうか？それぞれにお弁当を広げ、さらに各自のリュックを大きく占有していた多量のおつまみが出てきた。ただ、ここはまだ本番ではない。忘年会場はまだである。

昼食の後、葛原神社を見学した。広い境内の東側には立派な社があり、その南側にはお神楽の舞台が用意されている。どなたが祀られているか不明であるが、ネットで見てみると和気清麻呂や桓武天皇の第三皇子葛原親王などの名前が挙がってくるが、実のところ不明らしい。この神社の往年はさぞ華やかなものではなかったかと想像される。

もうすぐ新年であるが、町の人が大勢参拝に来るのかも知れない。まだその緊張はない。まずはこの社に参拝し、いまは朽ち果ててしまっている神楽の舞台を見学した。

12時33分、葛原神社を出発した。帰りは野外芸術のオブジェが道のわきに点在する‘芸術の道’を下っていく。途中、相模湖に架かる「弁天橋」でワカサギを釣っている人がいた。のどかな風景だ。今日は非常に楽なトレッキングコースであった。雨が心配であったが、降られることはなかった。さて、藤野駅に向かおう。相模湖駅前の「かどや」が待っている。

13時37分、藤野駅に到着した。すぐ相模湖駅へ向かう電車が来た。20分後、全員無事に“かどや”のテーブルに着いた。勝手知ったるお店である。予定より1時間早く宴会が始まった。運動した後のビールはうまい。

来年、ハイキング同好会は100回目を迎えるらしい。几帳面な礒部さんは1回目からの同好会リストを広げていた。「100回目は海外ですか？」「いやいや、海外は番外編ですから」、取り敢えずは春3月のお花見ハイキングですか？

読者の皆さん、来年(2020年)は100回目があります。是非ご参加ください！年齢と共に一年が早くなっていきますが、ハイキング同好会は何とか怪我もなく無事に今年が暮れていきます。来年もよろしく願い申し上げます。